

一般国道18号坂城更埴バイパス（坂城町区間）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

かみごみょうじょうりすいでん し  
上五明条里水田址 現地説明会資料

（一財）長野県文化振興事業団  
長野県埋蔵文化財センター

◆これまでの調査

本遺跡は、千曲川中流域に位置し、坂城町  
あみかけ かみごみょう うわだいら  
網掛、上五明、上平に広がる遺跡です。

これまでに、坂城町教育委員会や県埋蔵文化財センターによって何度も発掘調査が実施され、平安時代の水田跡以外にも、古墳時代や平安時代の集落跡が確認されています。

この地域では、古くから水田耕作が営まれていました。平安時代前期（9世紀末）に千曲川沿岸を襲った大洪水に埋もれてから、しばらくして集落が営まれましたが、あまり長くは続かず、また水田に変わっていきました。

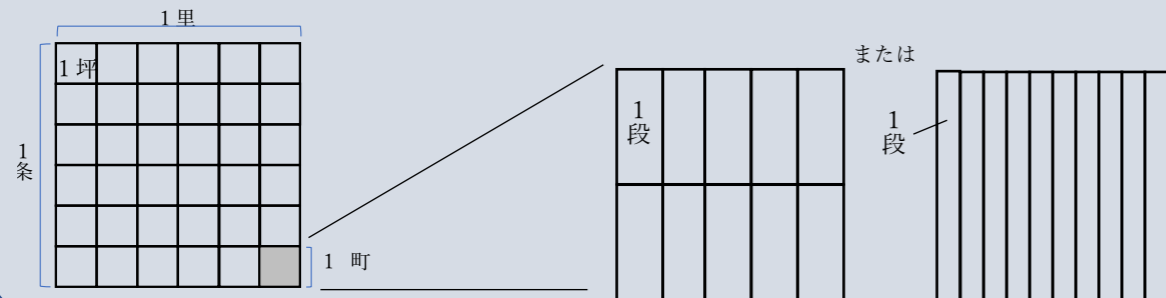
平安時代の集落は、半地下式でカマドを備えた竪穴建物跡が数軒ずつグループをつくり、発掘調査区全域に広く分布しています。昨年9月から開始した調査では、地表下約1.2～1.7mから、平安時代（10世紀頃）の竪穴建物跡25軒や製鉄炉跡1基、焼土跡1基、土坑などが、地表下約2mからは、更に古い平安時代の水田跡がみつかっています。



調査の様子

Q 遺跡名にある“条里”とは？

条里地割とは1町（約109m）四方の区画を1坪とし、坪を縦に6個並べて1条、横に6個並べて1里とした土地区画制度。1坪はさらに10分され、その1区画を1段とした。土地を管理するために、古代から中世にかけておこなわれたと考えられています。



◆製鉄炉跡を発見！

今年度の調査区東側で、平安時代の製鉄炉跡が1基みつかりました。

炉は、直径約60cmの筒型で、原料となる砂鉄や木炭を入れて高温で熱し、鉄滓を掻き出しながら、鉄塊を作り出していたと考えられます。

本遺跡の調査では、これまでに精錬鍛冶（大鍛冶）に関係すると思われる大型竪穴建物跡や、鍛錬鍛冶（小鍛冶）に関係すると思われる焼土跡がみつかっています。

また、羽口や砥石、鉄滓などの鉄生産関連遺物や、芋引金や紡錘車などの鉄製品が出土しています。

この集落では、下図に示した鉄器生産の工程のうち、②の製鉄、③の精錬鍛冶、④の鍛錬鍛冶が行われ、鉄器づくりをしていたことが分かりました。

“ものづくりの町、坂城”地域における鉄器生産の源流を辿る発見となりました。



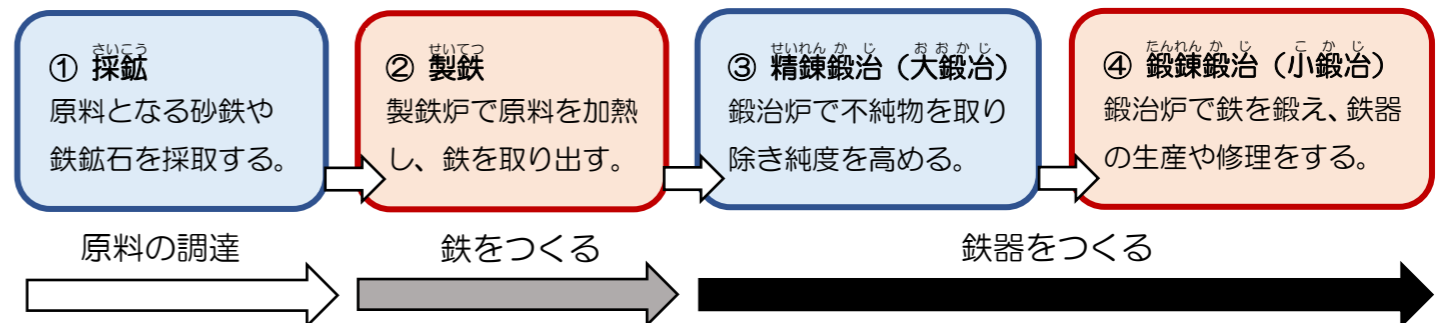
竪穴建物跡を切る竪型製鉄炉跡



竪型製鉄炉の操業模式図

※長野県埋蔵文化財センター（2014）  
「洞原遺跡現地説明会資料」より引用

【 ◆鉄器ができるまで◆ 】





礫が棄てられた土坑



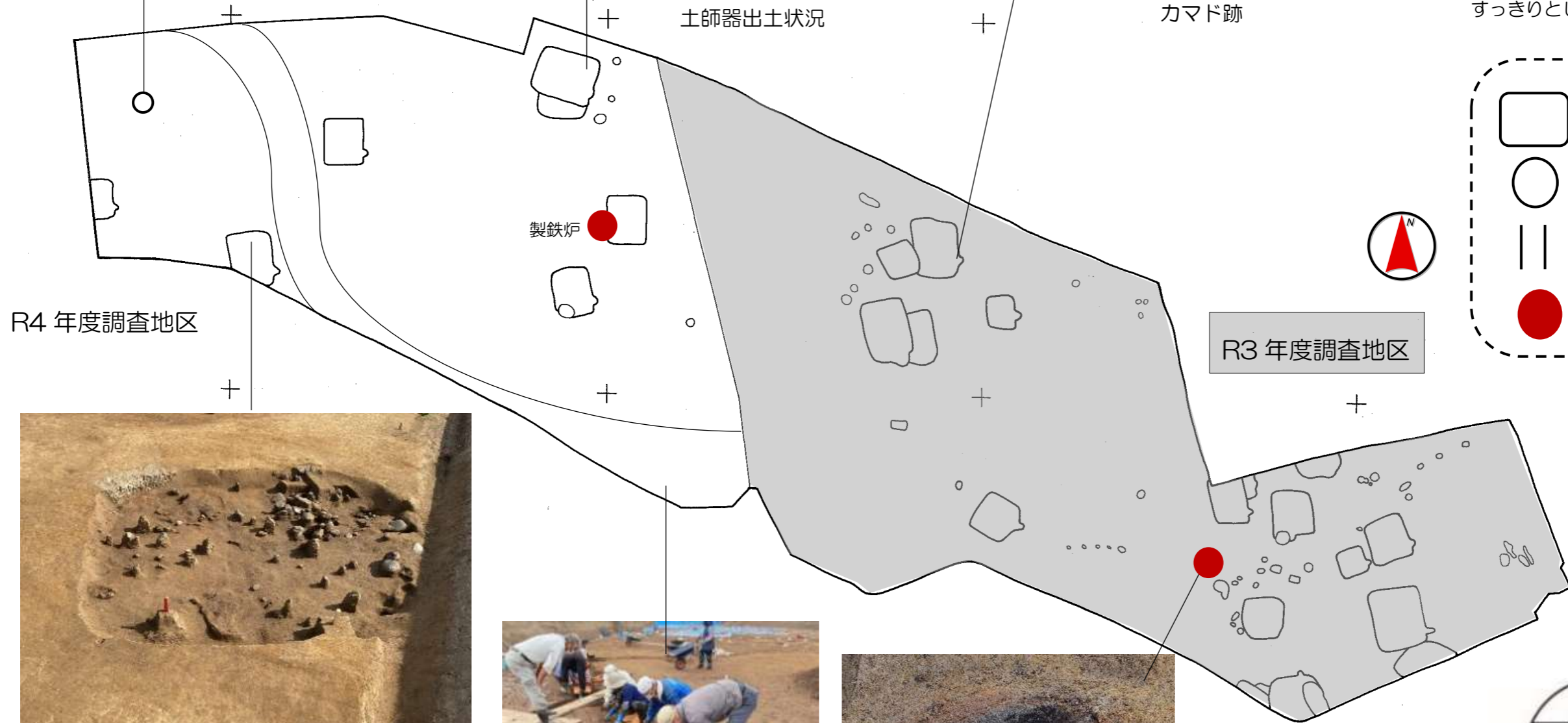
土師器出土状況



カマド跡

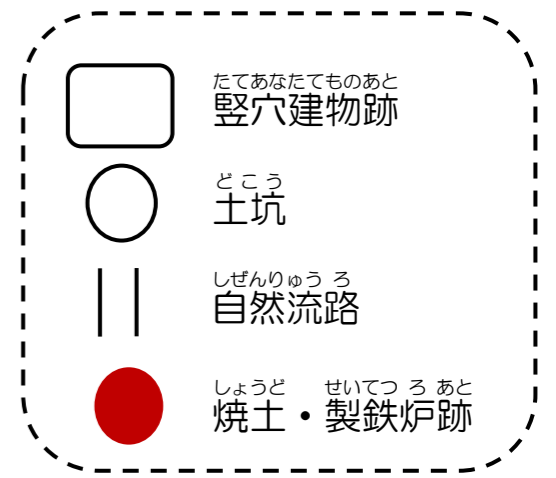


すっきりとした秋空が広がる上五明



R4 年度調査地区

R3 年度調査地区



炭化物や礫を含む竪穴建物跡



自然流路 調査の様子



焼土跡

今から約 1100 年前の村の様子がわかるね!



埋文ナビゲーター かがみちゃん